

猿著聞集「火の玉空中をとびし事」(解説)

江戸 鎧のほとり(鎧の渡し―東京都中央区)で舟に乗っていた時、申の時(午後4時ころ)くらいだっただろうか、北東の方より南西の方へ、大きき三尺(約90cm)くらいの火の玉のようなものが中空を飛んで行った。人々は驚いて、何だろうなどと話しながら向う側の岸を登っている時、南西の方から山の崩れるような恐ろしい音が聞こえた。この時、家の戸などごうごうと鳴り動いた。西の方の田舎では、障子などが破れたところもあったと聞いた。

その後、十日ばかりたって、ある旅人が言うには、八王子の近辺の何某という人の庭に金銀の砂が混じった大きな石のようなものが空より落ちて碎け散らばった。地も窪まりあちこちに破れ、ちかきあたりの家が皆傾いたと言った。何だったのだろうか、本当に不思議だ。八王子の事は人が言ったのを聞いたものなのでどんなものかはわからない。火の玉が飛んだのは、江戸の人が多く見たことで、今から13年くらい前のことだった。

コニカミノルタサイエンスドーム(八王子市こども科学館)